

千葉県感染症発生動向調査情報

2018年 第2週 (1/8-1/14) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		2週	1週	52週	51週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	16	15	18
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	28	26	23	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	1/8-1/14	1/1-1/7	12/25-12/31	12/18-12/24	1/1-1/7
			2週	1週	52週	51週	1週
小児科	RSウイルス感染症	○	10 0.56	1 0.06	1 0.07	3 0.17	26 0.20
	咽頭結膜熱		3 0.17	4 0.25	2 0.13	12 0.67	28 0.21
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		39 2.17	20 1.25	20 1.33	36 2.00	190 1.44
	感染性胃腸炎		118 6.56	71 4.44	105 7.00	187 10.39	423 3.20
	水痘		4 0.22	2 0.13	0 0.00	4 0.22	60 0.45
	手足口病		2 0.11	2 0.13	5 0.33	19 1.06	17 0.13
	伝染性紅斑		1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.06	3 0.02
	突発性発しん		9 0.50	2 0.13	4 0.27	7 0.39	18 0.14
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	2 0.02
	流行性耳下腺炎		5 0.28	4 0.25	1 0.07	2 0.11	14 0.11
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	◎	669 23.89	240 9.23	285 12.39	213 7.61	3,068 14.54
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	1 0.25	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	3 0.60	1 0.25	1 0.20	19 0.54
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	4 0.44
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査	結核	女性	20歳代	IGRA検査
結核	男性	40歳代	IGRA検査等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	50歳代	病原体等の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査	梅毒	女性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体の検出	百日咳	男性	10歳未満	抗体の検出
結核	男性	80歳代	画像診断等	-	-	-	-

・第2週は、結核6件(9)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(2)、梅毒1件(2)、百日咳1件(1)の報告があった。

※ 百日咳は、2018年1月1日から全数把握対象となっています。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第2週のコメント

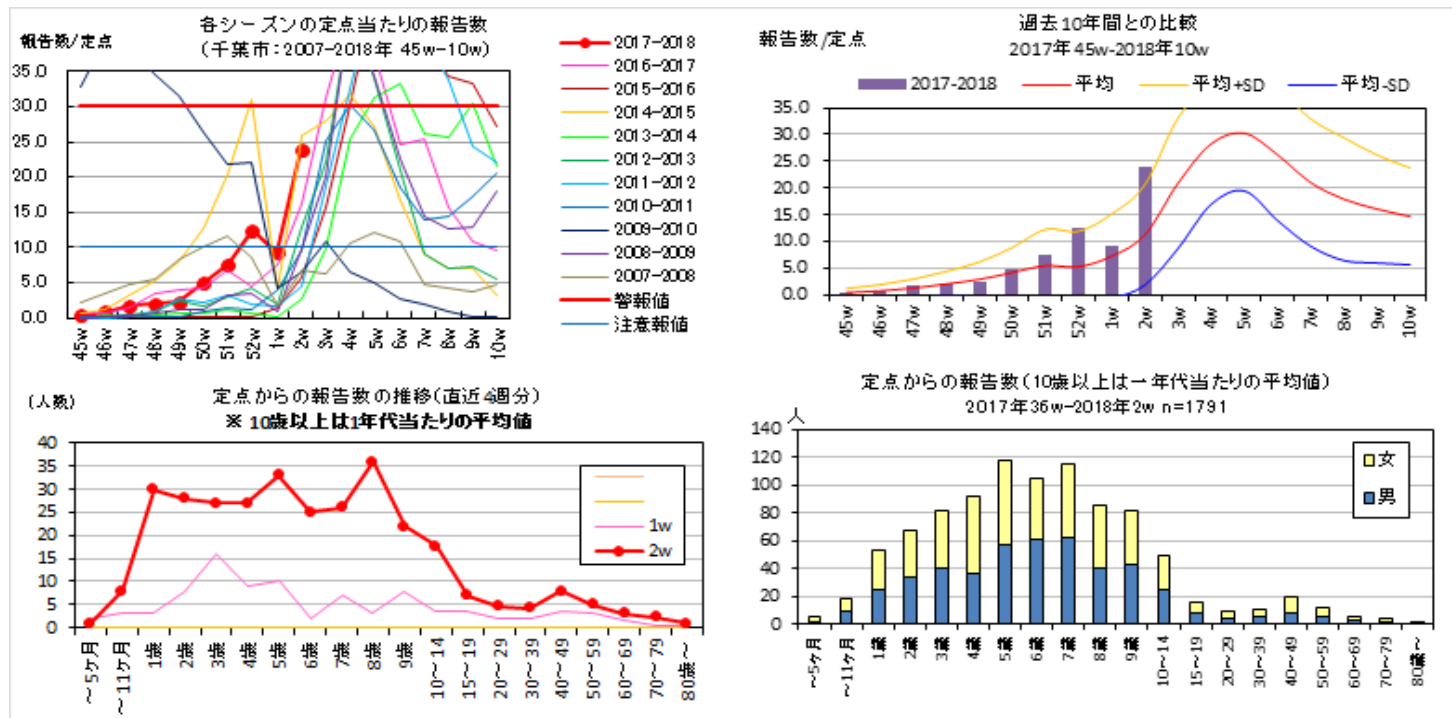
<RSウイルス感染症> 前週より増加し、0.56となった。過去10年の同時期と比べると非常に多い。

<インフルエンザ> 前週より増加し23.89となり、再び流行発生注意報基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると2015年に次いで多い。

トピック

＜インフルエンザ＞

全国レベルの第1週は流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮崎県、沖縄県、大分県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の2018年第2週は前週より大幅に増加し23.89となり再び流行発生注意報基準値を上回りました。過去10年の同時期と比べると2015年に次いで多くなっています。区別の発生状況は、中央区(38.8/定点)で流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回り最多で、40歳代で最多、一年代あたりでは7歳及び8歳で最も多く発生報告がありました。また、その他の全区で流行発生注意報基準値を上回っています。今シーズンである2017年第36週から2018年第2週までの累積報告数(n=1791)によると、性別では男性が48.2%(864名)、女性が51.8%(927名)で、年齢階級別の一年代あたりでは5歳(6.6%:118名)、7歳(6.5%:116名)、6歳(5.9%:105名)の順に多くっており、20歳未満は全体の64.5%、10歳未満は全体の46.1%となっています。



＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第1週は、過去10年の同時期と比べるととても少なくなっています。都道府県別では奈良県、山口県、大阪府の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと少なくなっています。千葉市の第2週は前週より増加し0.56となり、過去10年の同時期と比べると非常に多くなっています。区別の発生状況は、緑区(1.75/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第2週までの累積報告数(n=165)によると、性別では男性が58.8%(97名)、女性が41.2%(68名)で、年齢階級別では1歳(37.0%:61名)、2歳(20.6%:34名)、6-11か月(18.2%:30名)の順に多くなっています。

